

ガム取り清掃に思う

NPO法人環境まちづくりネット 栗原 実

私はいま、友人に誘われて週に2・3回、駅前広場や繁華街の歩道に散乱する噛み捨てガムの清掃活動に取り組んでいますが、その量の多さと人の無関心さに驚いています。

東京都内の自治体では、空缶や煙草の吸い殻等のポイ捨て防止と意識改革のため、略称・ポイ捨て条令を制定して、区民と事業者が一体となってまち美化に努めておられます。

このため、空缶と煙草の吸い殻は、以前に比べると数量的にも相当少なくなって来ていますが、噛み捨てガムはイタチごっこのようで、定期的に清掃をしていると減少傾向が見られるものの、数週間清掃をしないですと元の本阿弥です。しかも、この噛み捨てガムは、吐き捨てられて2・3日のうちならば、剥がしやすいのですが、数週間も経ちますとこびりついて剥がすのに苦勞します。

私たちが使っているガム取り棒は、東京都産業労働局の東京トライアル発注認定制度に認められた新商品で、立ったままガム取り作業が出来るので腰を痛めることもありませんし、弾力性に優れたスクレーパーと大学教授が開発したガム剥がし専用液を使っての作業なので2・3時間の清掃作業であっても疲れると云うことはありません。しかも、このガム取り専用液には除菌剤が入っているので衛生的でもあります。

地域の人たちが協力し合って、毎週1時間づつでもガム取り清掃をしていけば、素晴らしく綺麗なまちづくりを進めることが出来ると思います。

しかし、私たちボランティアが、ガム取り清掃に取り組み、まち美化を幾ら唱えても、そこに住み、そこで生計をたてている人たちが、知らぬ顔の半兵衛を決めつけているようでは、残念ながら、まちの発展など覚束ないでしょうし、日本の将来についても暗雲が立ち籠めている事の査証と、悲觀的になっています。

平成22年2月9日